

1 帰国・外国人児童生徒と共に進める教育の国際化推進地域の概要

平成14年9月1日現在の推進地域内の児童生徒数

ア 海外帰国児童生徒（海外に1年以上在留）在籍数	8名
イ 中国等帰国児童生徒数	0名
ウ 日本語指導が必要な外国人児童生徒数	55名

推進地域の特色

神栖町は茨城県の東南端に位置する人口約49,000人の町である。

鹿島臨海工業地域を背景に、外国人に対しても比較的雇用がある。外国人登録数は現在1,804人（人口比3.7%）であり、帰国・外国人児童生徒は93名（平成15年2月現在）にのぼる。また、日本国籍であっても日本語指導を要する児童生徒が急増している。

2 帰国・外国人児童生徒と共に進める教育の国際化推進地域センター校の概要

センター校の概要

学校名	神栖町立軽野東小学校
校長名	横田 秀一
所在地	茨城県鹿島郡神栖町奥野谷5746-2
学校規模	18学級（児童数 440人）
電話番号	0299-96-1402 / 0299-97-3700（日本語指導教室）
FAX番号	0299-96-9920 / 0299-97-3700（日本語指導教室）
ホームページ	http://www.sopia.or.jp/higashi/index.html
E-mail	higashi@sopia.or.jp / wakuwaku@sopia.or.jp （日本語指導教室）
交通機関	大洗鹿島線鹿島神宮駅下車、 関東鉄道バス海岸線銚子行き知手入口下車、徒歩10分

センター校への通級児童生徒数

外国人保護者の交通事情等から、児童生徒がセンター校まで通級することが困難であるため、軽野東小学校を除いては、派遣計画に基づいて、センター校加配教員等を各校へ派遣している。

センター校での指導時間及び指導内容

在籍クラスの担任と相談し、児童の日本語の能力に応じて、週3～5時間の個別指導を行い、日本語指導、適応指導、国語・算数の教科補充を行っている。また、国語・算数・生活・家庭・総合的な学習の時間などは、在籍クラスでTTによる支援も行っている。小集団活動も取り入れている。

3 帰国・外国人児童生徒と共に進める教育の国際化推進体制の整備

神栖町「教育の国際化」推進連絡協議会の概要

神栖町「教育の国際化」推進連絡協議会（年間2回実施）

帰国・外国人児童生徒教育受入推進及び「教育の国際化」推進に係る事業や諸活動について、学校及び関係機関等で共通理解を図り、本研究を全町的な取組とするための方策を探る。

「教育の国際化」推進委員会（月1回程度）

- ・外国人児童生徒の指導上の諸問題について情報交換し、より適切な支援体制づくりに努める。
- ・加配教員（センター校）、日本語指導員（神栖町）等の適切な派遣計画の作成
- ・指導技術の研鑽 講師等を招いて日本語指導法について研修する。各種研修会の報告
- ・自校開発教材等の共有化 ・授業研究（日本語指導）及び研究協議

活動状況

月	推進地域（神栖町）	センター校等
4	推進委員会準備会 ・派遣計画作成	・時間割作成 ・研究体制の確認 ・事業計画の作成
5	第1回「教育の国際化」推進委員会	校内研修は毎月実施（全職員の授業研究及び協議）
月	・情報交換及び研修 ・個票の書き方等	
6	第1回「教育の国際化」推進連絡協議会	（会場校）全職員参加

月	・講演「これからの国際理解教育について」 目白大学 多田孝志先生	三市町要請訪問指導 3年1組 算数「かけ算」 4年1組 音楽「琴にしたしもう」
7月	第2回「教育の国際化」推進委員会 ・授業（日本語指導）研究及び協議・情報交換	（会場校）授業研究実施 日本語指導教室 「日本語初期指導」「小集団活動」
10月	第3回「教育の国際化」推進委員会 ・授業研究及び協議（大野原小学校） 第4回「教育の国際化」推進委員会 ・授業研究及び協議（息栖小学校）	要請訪問指導 2年1組 算数「かけ算（1）」 6年2組 道徳「家族は私の原点」
11月	第2回「教育の国際化」推進連絡協議会 ・授業公開（日本語指導教室・普通学級） ・センター校での取組について	（会場校）全職員参加
12月	第5回「教育の国際化」推進委員会 ・授業研究及び協議（神栖第三中学校）	
2月	第6回「教育の国際化」推進委員会 ・授業研究及び協議（横瀬小学校） ・補助簿の作成について	校内研修「教育の国際化」 今年度の取組のまとめと反省 来年度の見通しについて
3月	第7回「教育の国際化」推進委員会 ・研究のまとめ，今年度の反省，来年度の課題等	

4 平成13・14年度の具体的な取組内容とその成果等について

(1) 研究主題

研究主題	「国際社会に生きる心豊かな児童の育成」 - 外国人児童生徒等と共に進める「教育の国際化」を目指して -
------	--------------------------------------------------------

(2) 研究主題に関連した活動及びその成果

外国人児童生徒一人一人の実態に応じた適切な支援・指導を目指し，全町的な受入体制及び研修体制を整備すると共に，各学校への支援体制を充実する。（推進地域としてのねらい）

日本語指導に関する支援体制の整備

ア 日本語指導センターの充実（指導員の増員）

区分	氏名	支援業務等の分担	
加配教員	山中教諭	自校の外国人児童への日本語指導及び適応指導を行うと共に，日本語指導センターの主任として日本語指導に係る次の業務を分担する。 ・自校及び派遣校の児童生徒の指導計画等の吟味 ・教育委員会及び各校外国人担当者等との連絡調整 ・神栖町日本語指導員への指導及び支援	
	田川教諭 猿田教諭	外国人児童生徒が在籍している学校（日本語指導が必要な児童生徒）に向いて日本語指導や相談活動を行う。派遣は各学校午前中を原則とし，午後は自校の指導にあたる。	
神栖町 日本語指導員	佐藤指導員	週2日勤務（午前4日）	教育委員会及び日本語指導センターの指導監督の下，各校外国人児童生徒等の支援を行う。
	上村指導員	ポルトガル語による支援	
	新堀指導員	週2日勤務（午前4日） タガログ語による支援	
	桧森指導員	週4日勤務（3日+午前2日） 教科補充を中心とした支援	

教職員研修の充実

- ア 絵画語彙検査の研修会
 - イ 日本語指導員の研修
指導している児童生徒の情報交換及び日本語指導や教科指導の指導法についての研修
 - ウ 加配教員の研修 新しく担当者となった教員への短期集中研修（センター校で実施）
 - エ 日本語指導の授業研究
 - 軽野東小学校 （7月12日） 「日本語初期指導 - 形容詞の否定表現 - 」
「小集団活動 - 夏を知ろう - 」
 - 大野原小学校 （10月 1日） 「おなじなかまのことば（国語科適応指導）」
 - 息栖小学校 （10月29日） 「わしはだれでしょう（国語科適応指導）」
 - 神栖第三中学校 （12月 2日） 「日本語初期指導 文のつながりかた - 助詞 - 」
 - 横瀬小学校 （2月 4日） 「つかってみよう かん字あそび（国語科適応指導）」
 - オ 外部講師を招いての講演会・研修会の開催
 - 日本語指導 大蔵守久：波多野ファミリースクール（H14年 1月31日）
 - 国際理解啓発のための講演会 多田孝志：目白大学（H14年 6月 4日）
-

推進地域及び日本語指導センターの成果

【推進地域】

- ア 充実した指導員派遣体制
- イ 早期からの外国人児童生徒の把握
- ウ 外国人児童生徒も視野に入れた就学指導体制
- エ 「教育の国際化」推進委員会等での日本語指導に係る研修の充実
- オ 教育の国際化推進センター校及び日本語指導センターへの支援
- カ 幼稚園，高等学校との連携

【日本語指導センター】

- ア 自作教材の充実（かんじマスター，よむよむワールド，よみかえマスター 等）
- イ 日本語指導・支援体制の充実と効率化
- ウ 教室環境の充実（九九フロアー，こたつ，コンピュータ 等）
- エ センター校における外国人子女教育関係資料の収集，整理と開発（情報センターとしての機能）
- オ 就学児童の日本語力検査（絵画語彙検査）の実施
- カ 各種研修会への参加
 - 実践シェアの会（H13年12月22日）
 - 全国海外子女教育・国際理解教育研究協議会（H14年 2月23日）
- キ 翻訳文書の充実
- ク 補助簿の作成
 - 日本語指導についての指導の記録として補助簿を作成した。日本語指導開始時の状態や，日本語指導に関する年間授業時数，指導目標や内容，結果などを明記するようにしている。
- ケ 受入の際の保護者向け文書の見直し
- コ 日本語指導員，加配教員の研修

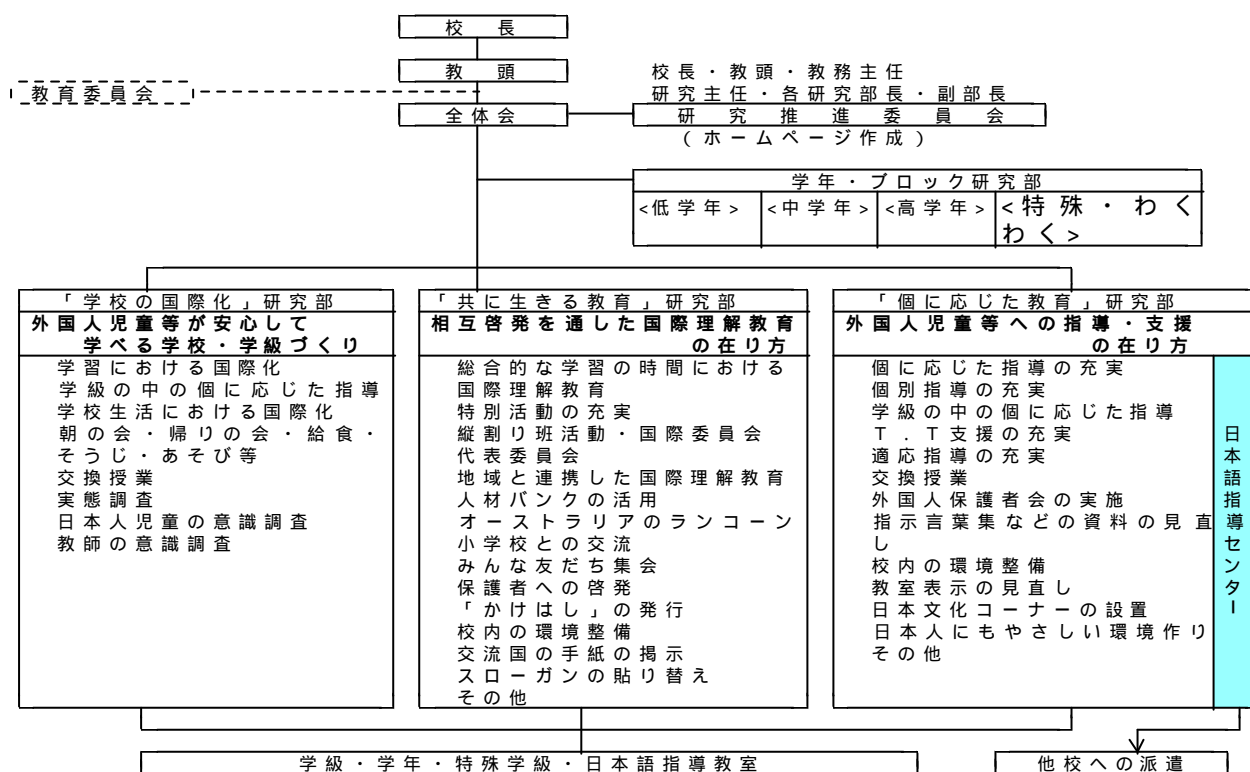
外国人児童生徒等への日本語・適応指導を充実すると共に、外国人児童生徒等が安心して学べる「教育の国際化」を進め、異文化にある子ども同士が相互啓発しながら「違いをプラスにして」学ぶ国際理解教育の在り方を実践的に研究する。(センター校としてのねらい)

研究の仮説

外国人児童等が安心して学べる環境を作りながら(学校の国際化)、相互啓発を通じた国際理解教育を進め(共に生きる教育)、外国人児童等への指導・支援(個に応じた教育)を充実させれば、「教育の国際化」が図れ、国際社会に生きる心豊かな児童を育成することができるであろう。

研究組織及び全体構想図

< 国際化推進地域センター校 >



研究の内容 「学校の国際化」の視点から

学習における国際化

学習における国際化を進める上で、まず教師自身が一人一人を大切にし、誰にでもわかるやさしい授業を心がけることが大切である。また、暖かい雰囲気の中で進められる児童同士の助け合いが必要となる。

ア 学習中における国際化の

心得の掲示

教師自身が実践すべきこと

を「学習中における国際化の心得」とし、教卓の周り

などの見やすいところに

掲示し、意識するように心がけた。

- 学習時における国際化の心得
- ・ 児童を指名するときは、「～さん」と呼ぶ。
 - ・ 掲示物やプリント類、板書で漢字を使うときには、「ふりがな」をつける。
 - ・ 説明や講話等の時は、わかりやすいように「ゆっくり」と話す。
 - ・ 視聴覚教材、パソコン等を活用して「わかる授業」を心がける。
 - ・ 席替えやグループ編成のときには、「スタディ・ことば・相談・わくわく」の児童を十分に考慮する。
 - ・ 観察や実験など「体験的な学習」の充実を図る。
 - ・ 「評価カード」などによる学習評価の工夫を心がける。(自己評価・相互評価)
 - ・ 「問題解決的な学習」により、自ら学び自ら考える力の育成に努める。

イ 授業実践 【 1年 算数「ながさくらべ」】

この授業は、手や下敷き、紙テープなどを使って長さを比べることができることをねらいとしている。実際に、間接比較する場面で活動がスムーズに行えるようにグループ分けに配慮したり、児童同士助け合っ活動できるように支援したり、「教育の国際化」という視点で教師が配慮した。また、机間指導のとき外国人児童等を中心に行ったり、外国人児童等を意図的に指名し意見を取り上げたりした。



更に、この学級には日本語初期指導レベルの中国人児童がいるため、その子でも答えやすいように結果発表での答え方を文型カードで提示した。日本人児童への答え方の指導と中国人児童への日本語指導を兼ねた答え方の指導を行った。

学校生活における国際化について

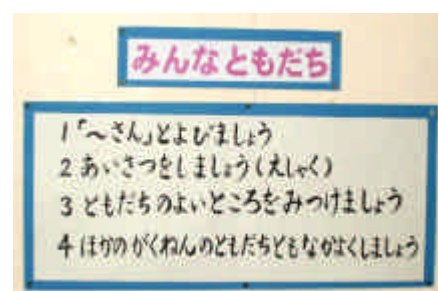
授業以外の場面でも、教師自身が配慮して外国人児童等を含めて誰もが安心して生活できる環境を作るために、学校生活の国際化を進めた。

ア 「みんな友だち」の掲示

児童一人一人が友達を尊重し、大切にし、助け合う気持ちを育てるために、「みんな友だち」という約束を作り、教室全面に掲示した。

イ 「なかよしポスト」の設置

児童が友達の良いところを意識するように「なかよしポスト」を全学年に設置した。



ウ 「わくわくコーナー」の設置

友達の国について知り、異国文化理解の一つとして、各学級に「わくわくコーナー」を設置した。

オ 特別教室の案内板の設置

特別教室に絵表示と外国語の表記の書いてある案内板をつけた。外国語は、本校外国人児童に関係のある言葉を中心に、ポルトガル語、タガログ語、タイ語、英語にした。

カ 異国文化、日本文化に触れる環境の工夫

世界の主な国の民族衣装や国の特徴、あいさつなどを掲示した。外国の小学校との交流の様子も掲示した。和室には、日本の伝統的な遊び道具を置き、昼休みなどに児童が自由に遊べるようにした。

キ 交換授業

交流学級担任と日本語指導教室担当者、交流学級担任と特殊学級担当者で交換授業を行った。

研究の内容 共に生きる教育」の視点から

総合的な学習の時間における実践

自国文化理解の視点や異国文化理解の視点から、授業を行った。

開発教育の実施

自分と違う国で生まれた人や違う文化で育った人、同じ日本人でも自分と違う考え方をする人たちと一緒に「共に生きる」ためにはどうしたらよいか、地球市民としての考え方や態度を身につけていくことをねらいとして、開発教育を各学年取り入れた。

英語に触れる活動の実践

特別活動における実践

ア 国際理解教育に関する標語・歌の募集

イ 「みんな友だち集会」の実施

学期に一度「みんな友だち集会」(全校集会)を行った。代表委員会で計画し、国際委員会や学年の発表を中心に行った。

ウ 国際委員会の活動

国際委員会では、「あいさつ運動」、ビデオ放送による「外国人児童の紹介」、「みんな友だち集会」での発表、「みんな友だち新聞」の発行などを行った。

エ 縦割り班活動の実施

地域と連携した活動

運動会での全校踊り、親子レクリエーション、オーストラリアからの留学生との交流、タンザニアの絵画展、などを実施した。保護者への便り「かけはし」の発行し、本校で取り組んでいる「教育の国際化」についての啓蒙を行った。オーストラリアやイタリアの小学校との交流も行っている。

研究の内容 **個に応じた教育」の視点から**

外国人児童や特別支援学級在籍児童を中心に、一人一人に優しく、わかりやすい指導・支援はどうあるべきか、「個別指導」と「適応指導」を中心に研究を進めた。

個別指導の充実

【外国人児童への個別指導，小集団指導，母親参加型指導】

「指導目標」をもとに、児童に合った教材を選び、児童がわかる喜びを味わうことができるように、やさしく丁寧な指導を心がけている。

外国人児童・生徒と母親と一緒に指導することで、学校での指導の様子を知ってもらおうと共に、母親にも日本語を学ぶ場を提供している。

適応指導の充実

【小集団活動】

週1時間、1年生から3年生までの児童が集まる小集団活動の時間を設けている。小集団活動の時間は体験活動が多く、同じ教室の友達が集まるので、お楽しみの時間になっている。

研究の成果と課題

ア 教師の意識の向上

外国人児童や特別な支援を要する日本人児童にとって「わかりやすく」「やさしい」指導、つまり、児童一人一人にとって「やさしい」教育を目指し、授業や学校生活において実践してきた。どういうことに気をつけて指導をするとわかりやすくなるか、どういう支援をするとその子なりに理解できるか、意識する教師が増えてきた。

イ 名前を「～さん」で呼ぶ児童の増加

外国人児童や全ての日本人児童にとって「安心して学べる」環境を作るために努力した結果、「～さん」をつけて呼ぶ児童が増え、友達のよいところを見つけようとする児童が増えた。

ウ 相手の気持ちを考えて行動する児童の増加

国や育った環境が違ったり、考え方が違ったりする友達がいたとき、どうしたら仲良くできるか、考えていこうとする児童が増えてきた。

エ 外国人児童や外国人保護者の意識の向上

外国人児童や保護者の学校教育に対する意識も大分変わり、外国人児童の欠席日数が年々減少している。

オ 「教育の国際化」の研修の更なる充実

外国人児童や全ての日本人児童にとって「安心して学べる」環境を作るためにはどうしたらよいのか、更に研究を進めていきたい。外国人児童がいたおかげでできたこと、いろいろな考え方の違いがあったからこそできたことを、これから大切にしていきたい。